

## 「か」ノ部

かうまん 「高慢」自慢すること

○こーまん 右に全ジ

かきやく 「書役」

○かきやく 今ハ死語ニ属ス

かきがね 「繫金」 かすがひ

○かんがに 右ニ全ジ

かぐ 「膈」 胃癌ノ総名

○かく 右ニ全ジ

かく 「絡」「構」 構へ造ル 編み成ス

○はく 右ニ全ジ 例「船ノ綱ヲはく」

かげ 「影」 オモカゲ、オモザシ、カホツキ

○はぎ 右夫々ノ意ニ用ヅル、又しがた (姿)ト合セ

テ「はぎしがた」トモ言フ

かけすずり 「掛硯」

○かけじし 今ハ用語ト共ニ実物モ失ハレントス

かげん 「加減」 ホドアヒ、グアイ

○かぎん 右ニ全ジ 病氣ノ場合ハ「かぎんが悪イ」トハ用キズ

かこひ 「囲」

○はくい。かけー 「はくい」トイフトキハ垣、屏ノ義。「かけー」トイフトキハ罪人ヲ入ルル牢ノ意

かざし 「挿頭」 カザスモノ  
○かがし 一番ノ晴若ナドヲ云フ。かざしノ転義ナルベシ

かざ 「香」 ニホヒ、カワリ

○はざ 右ニ全ジ、鹿児島「かざ」 沖縄「はざ」

かしぐ 「炊」 米ヲ甑ニ入レテ蒸シテ強飯ヲ作ル

○はしき 「名詞」 強飯ヲ作ル所作ニアラズシテ強飯ヲイフ

かしら 「頭」

○はしヤ はしら はしヤハあたま又は髪ヲイフ敬語、かしらハ頭目、意味ニヨリテ言方ヲ異ニス

かしは 「葉」 「堅シ葉ノ約」 飯食ノ筒トシテ用キル木ノ葉ノ称

○はしヤ・ぬ・ふアー かしはノ葉ト称フ。主ニ芭蕉ノ葉ヲ云フ、物ヲ包ムニヨク用キラルル故ナルベシ

かたそば 「片側」 片端

○はたすば 右ニ全ジ 着物ノ裾ノ揃ハザルヲ「はたすばなが」(片側長 ナドトモイフ

かちあふ 「搦合」 ブツツカル

○かツちヨ 動詞形ハナシ、意右ニ全ジ。例「柱トカツちヨ合ツタ」

かつれる 飢ウ。腹ヘル

○はちりる 腹ノヘリテ、食ヲ切ニ欲スル意ニ用キル  
斯カル者ヲ「はちりむん」トモイフ

かつ 「糅」 雑ズ 交フ

○はてイる 主食ニ副食ヲ添ヘテ食フコトニ用キル。  
而シテソノ添ヘ物ヲ「はてイむぬ」トイフ。例「飯ニ甘諸ヲはてイテ食フ」

かつぐ 「擔」 (一)荷フ (二)ダマス

○はしぎる 背ニ負フコトノミ用キル。転用シテ、借錢ナドヲ持チ乍ラ支払ヲセヌコトニ云フハ(二)ノ意ニヤヤ近シ

がてら 一事ニ一事ノ添ハル意ヲイフ

○がてな・がちやな 例「山ニ行キがちやな寄ツテ見ヨウ」

かしはもち 「柏餅」

○はしヤ・ぬ・ふア・むち 柏餅トハ別ナリ、芭蕉ノ葉ニ包ミテ蒸シタル餅ヲ称ス

かせ 「棹」 續ミタル麻、紡ギタル糸ヲ絡フ具、工字形ヲナス

○はし 右ニ全ジ。大言海ニハ右ノ解説ノミナレド、倭訓菜「俗ニ荷ニかせナドイヘリ、糸ニかせトイフモ此ノ義ナルベシ」トアル。鹿児島「かせ」沖縄「はし」同様糸ノ義ニ用キル。「総」ハコノ「かせ」モ意味スル字ニアラザルカ

かせぐ 「稼」 生業ヲ営ム

○かしぐ 右ニ全ジ

かたぐ 「擔」 肩ニ負フ

○はたみる 右ニ全ジ

かたびら 「帷」 裏ヲツケヌ衣、ヒトヘモノ

○はたびヤ 外ニ「ひとウぬ」ノ語モアリ  
かたへら 「傍片」 対ノモノノ一片

○かたひヤ 右ニ全ジ 例「魚ノはたひヤヲ買ツテ来タ」

かなし イトホシ イトシ

○はなしヤ 沖縄ト同ジク「可愛し」ノ意に用キル  
・はなしーぐワ(可愛し子)  
・はながなとウ(可愛しくするさま)

伊勢物語「獨子ニサヘアリケレバ、イトかなしウシタマヒケリ」ノかなしナドコノ適例ナリ

がね 名詞ニ添ヘテ、名詞ニ用キラレ、其ガ根差ノ義ニテ、其ノ料又ハ設ケノ人、候補者ノ意トナル

○がに 人名ノ下ニツケテ、親愛ノ意ヲ含ムガ如シ、例「次郎がに」「松がに」

がのみ 「我飲」 酒ヲ味ハズシテがぶ／＼飲ムコト

○がーぬみ・ごーぬみ 意右ニ全ジ  
が・の・いわい 「賀祝」 長寿ノ賀宴

○がんでぬ・ゑー 八十八歳ノ米寿ヲ云フ

かッぱ 「河童」 かはら・わらわノ約

○がわる わらわヲ省略シタル形ナリ  
かは 反動ノ意ヲ表ス語

○かや 右ニ全ジ 疑問ノ「か」ニ反語ノ「や」ヲ附シタル形ナリ、例「本当ニ見タ人ガアロかや」  
かひ 「匙」

○シツケ 単ニ「かひ」ニ相当スル語ハナシ。「シツケ」

ハ「添へ匙」ノ義力。「シヤもじ」ヲ「みしげ」トイフ。飯匙ノ義ナルベシ。大言海「穀ヲ用キタルニ起レルカ、形ノ似タルヨリ云フカ云々」トアルガ、本島ニテハ、あはび・とこぶしノ穀ヲ匙トシテ古クハヨク用キタルモノナリ

かひな 「肱」抱への根(骨)ノ約転力。(一)肩ヨリ肘マデノ間 奥ノ手、今ニ腕

○へんにヤ 二の腕ヲ云フ  
かひなだゆし 肱ノクタバヒレタルサマ

○へんにヤだろさ 右ニ全ジ  
かひがひし 「甲斐甲斐」勇ミ励ム状ニテアリ

○かがしヤ 右ニ全ジ 例「中々かがしヤノ男デアル」  
かぶる 「被」(一)頭ニイタズク (二)上ニ覆フ (三)着ル (四)負フ、受ク

○はぶる 右夫々ノ意ニ用キル。(四)ノ例「借錢ヲはぶる」「罪科ヲはぶる」

かへさま 「反様」ウラウへ、ウラハラ

○へーしま 着物ヲ裏返シニ着ル時ニノミ云フ。宇都保物語「上ノ袴ヲかへさまニ着」ノ用例ニ適フ

かへりて 「却」カヘツテ

○へーち 「へー」ハかノはニ転ジ、はへノ約、「リ」畧、ちハてノ音通 例「コレヨリモアレガへーちヨイ」

かへり 「返し」タビ、度回(常ニ数詞ノ下ニ附ク)  
「二かへり」「三かへり」「幾かへり」

○け かへノ約、リノ畧、右ニ全ジ 例「一け」「三け」「幾け」

かへる 「反」クツガヘル、ヒックリガヘル  
○へーる 体ヲ横タフルコトヨリシテ、ヤガテ眠ル義ニ用キラル。俗ニ言フ「ひっくりがへッてキテ雑誌ヲ読ム」ノ用法ニ適フ。国語ノ「ひっくりかえる」「まんげる」(眞返るノ義)

かまし 「囂」騒ガシ、ヤカマシ  
○はまらしヤ 右ニ全ジ。らハにくしヲにくらしト云フ如ク添音ナルベシ

がまし 接尾語 似の嫌ひありノ意  
○がまらしヤ 右ト全ジ意ニ用キル 例「物言からましヤ」「夢がまらしヤ」

かな 「飽」今ハ専ラ「かんな」ト云フ

から 「幹」(一)ミギ、クキ (二)柄

○はら 梃子ニ用キル棒ヲがらト云フ、右ノ意ヨリ来レルナルベシ

からくる 糸ヲ縦横ニ引張り絡ヒテ釣り動カスアヤツル  
○はらくる 工夫 畫策ノ意ニ用キル。名詞形からくりハはらくい 例「アノ男中々はらくい方が上手ダ」

からまく 「絡卷」マキツクル  
○はらまく 右ニ全ジ

からす・なへり 腓の筋ノ痙攣  
○がらし・ねーじヤ 右ニ全ジ 方言ねーぐハなへぐ

かり「許」其ノ人ノ居ル処  
○かち 方言ニテハ、唯「処」ノミヲサシテ用キル。

例「医者ノ家かち行ク」沖繩ニテハ「かい」ニシテ一層国語ノ形ニ近シ

○はな 古ギ形ノマ、云フ

かんじョ 「閑所」灌所ノ音転ニ、閑所ヲ借字セシニテ、手ニ水ヲ濯グ所ノ義ナラム、廁ト云フヲ避ケ

テイヒシト思ハル(今モ静岡、安房、仙台ニテハ廁ヲかんじョト云フ)

○かんじユ 廁ノ意ニテヒロク用キラル。外ニ用便、用便所ヲ言フ語ニハしちぬ(雪隠)ちョーじ(手水)ちョーじヲ使フ。ゆーじユ(用事)ゆーじユ

ヲシニ行ク等アルモかはヨリ来レル語ハナシ  
かんやく 「簡約」ツゞマヤカナルコト

○かんじヤク 右ニ全ジ 例「才金子ハかんじヤクシテ使へ」

がん 「龕」禪家ニテハ棺ヲ云フ  
○がん 棺ノ意ニ用キラル

かんえう 「肝要」  
○かんにョー 大切ナルコトノ意ニテ用キル  
がんでう 「剛健」くワンぢやうニ全ジ。人体ノ極メテ強ク健カナルコト

○がんぢェ 右ニ全ジ 形容詞形 がんぢョーさ 例「中々がんじョーさノ老人ダ」

### 「ぎ」ノ部

ぎ 「義」行道ノ宜シキニ合フコト

○ぎー 右ニ全ジ 例「ぎーニ合ハヌ」コレヲ転用シ

テ様々ニ云フ。例「ぎーヲ言フ」(議論ヲナス)「ぎーヲ張ル」(意地ヲ張ル)「ヤカラぎー」(屁理窟)「儀」コト。コトガラ

○ぎー 例「サウイフぎーハナイ」ハ(左様ノ儀ハ無之)ニテヨクアタルモ、コレヲ濫用シテ「二人デ某地ヘ行クぎーヲシタ」ノ如クイフコトアリ  
きざし 「階」 階段

○きざし 右ニ全ジ 例「石ノきざし」  
きぬた 「砧」 衣ヲ打ツニ用キル板

○きんた 右ニ全ジ 今ハ実物多ク見当ラズ  
きぬ 「衣」 着物

○きん 右ニ全ジ 今ハ廢語ニ近シ  
きは 「際」 トキ、ヨリ

○きわ 右ニ全ジ  
きばる 「氣張」 奮発

○きばる 奮発ニ精ヲ出スノ意加ハル  
キビシヨ きぶす (急須)

○キビシヨ きぶすトハ云ハズ  
きびし 「敵」 (一)其ダ敵カナリ (二)ユルミナシ (三)苛シ (四)甚ダシ

○きびしや 右夫々ノ意ニ用キル  
ぎんみ 「吟味」 物事ヲヨク調ブルコト

○ぎんみ 右ノ意ヲ転用シテ、衆人寄合ッテ事ヲ議スルニイフ

きんし 「禁止」 差シ止ム  
○きじ 右ニ全ジ 例「山ヲきじる」(人ノ伐採ヲ禁ズル意)「きじやま」(禁止山)

きも 「肝」 心、キモタマヒシ、精神、氣力

○きむ 右ノ意ニテくる(心)ト共ニヒロク用キラル。又「こゝろ」ト合セテ、「きむくる」トモイフ。例「きむが良イ」「くるるが良イ」「きむくるが良イ」何レニテモ言フ

きやす 「消」 消ゆノ他動

○きやす 「消ゆ」 ハ「きーる」

きやみ 「氣病」 氣遣ヨリノ病

○きやめ 右ニ全ジ 又後悔ノ意ニモ用キル

きよら 「清」 キラ／＼シキコト、ウルハシキコト

○キユラ うつくし(美)ニアタル語ハナシ、其ノ代用語トシテヒロク用キラル。用法ハ「きくら女」  
「きくら花」ノ如ク名詞ノ上ニ附キ、「きよらヲ

盡ス」ノ如クハ云ハズ形容詞ハ「きくらさ」

きり 「錐」

○いー 鹿兒島語「い」「鑽ル」ノ意ニアラズシテ「入ル」カ

きれもの 「切物」刃物、刀

○きりむん はものハ言ハズ

## 「く」ノ部

くく「漏」 潜ル、脱ケル

○くきる 右ニ全ジ 例「繩ノ下ヲくきる」

くくもる 氣曇る、又ハ氣隠るトノ転トモイフ、隠リテ  
分明ナラズ

○くくまい 「名詞」花ノ荅ニイフ。開カムトスル氣  
隠ル状ニテ、語原ト相一致ス

くくむ 「銜」「含」口中ニ持ツ、フクム

○くくむ 右ニ全ジ 例「水ヲくくむ」

くぐつ 「裏」藁ニテ造レル袋・蒲簀ノ類

○くぐち 藁ニテ物ヲ包ミ括ルコトヲ「くぐちヲスル」  
トイヒ、包ミ括リタルヲ「わらくぐち」ト稱ス

くくる 「括」マトヒテ結ブ

○くいる 右ニ全ジ

くさ 「草」

○くさ 方言ニテハ「くさ」ハ雑草ノ意ヲ余分ニ含ム即チ「つくい」(作物)ニ対スル語ニシテ「草ガ生エル」ハ雑草ノ生ズルコトナリ。コノ義ニ隨ヘバ、くさととり 大言海「生ヒタル草ヲ除キ去ルコト」 辞林「草ヲ取り去ルコト」ニテハ、物足ラザル様ニ覺ユ

くさは 「草葉」 草ノ葉

○くさふアー 方言ノ「草葉」ハ未ダ実ラザル作物ノ立毛ヲイフ。例「くさふアーノ時ハ良カッタガ実が入ッテキナイ」

くし 酒ノ事トスル説アリ云々。久志。具志ヲ酒トイフナリ云々

○ぐし うみき(御神酒)ト共ニ神ニ奉ル酒ヲ云フ。

或ハ御酒ノ訛ナルヤモ知レズ。但シ方言ニテ酒ハ、単に「さき」ト言フノミニシテ「お酒」「酒」トハイハズ記シテ示教ヲマツ。宝島ニテハ「すい」ノ由

くし 「串」 竹木ヲ細長ク作り物ヲ刺シ貫クニ用フ具

○ぐし 右ニ全ジ。転用シテ竹片モ竹串ト云フ。方言

簪ヲ「とウんぐし」トイフハ留串ノ義ナルベシ

くし 「櫛」 理髮具

○くし 方言ノ「くし」ハ梳櫛ノコト、齒ノ疎ヲナル

ハ「さばき」ト云フ。髪ヲ捌クノ意ナルベシ

くじ 「公事」 (一)オオヤケゴト (二)訴へ、裁判

○くじ、くじ (一)ノ場合ハ「くじ」ト云フ、例「く

じの仕事」「くじの物」 (二)ノ場合ハ「くじ」

例「くじゴトニナッタ」今ハ廢語ニ属ス

くじる 「抉」 穿チエグル

○くじる 用法セマシ 「人ヲ言ヒくじる」ハ「人ヲ

言ヒクサス」ノ意

くそぶくろ 「糞袋」 腸 ハラワタ

○くすぶくる 右ニ全ジ

くだり 「件」 文章ニ記セル章・段・條

○くだい 踊ニノミ用ナル。例「ちゅくだい」(二件)

踊ッテ見セヨ

くだ「管」 (一)竹筒ナド、スベテ円ク中空ナルモノ

ノ (二)機ノ具

○くだ・くだぐ (一)ノ形ノ小ナルモノニ「くだ」ト称

ス (二)ノ場合ハ「くだぐ」(管子)トイフ

くちい 「満腹」 こゝろぐし、めぐしのくしノ転ニテ

苦シノ意ナルカ。語源余リニ古キカ飲食物ノ胃ニ

満チテ苦シ

○くちさ。くつき。形容詞ノ形ニテ用ナル。満腹ノ場

合ハ「腹くちさ」。其ノ外ニ窮屈。寂寥ノ意ニテ

ヒロク用ナル。例「姑ガヤカマシクテくちさア

ル」他人ノ中デハくちさノ居ラレヌ」「山ノ中ハ

くちさノ居ラレヌ」コレニテ苦シノ意アルハ明ラ

カナリ

ぐち 「愚痴」 詮ナキ繰言スルコト

○ぐち 右ノ意ト共ニ、不平ノ意ニ用ナル、例「小サ

イ事ニぐちヲフク男」国語「くちくち」ハ「ぐぜ

ぐぜ」

くちなは 「口繩」 牛馬ノ口ニ附クル繩

○くちな 右ニ全ジ

くづち 癩癩ノ異称

○くぐち 右ニ全ジ。くぐち者ヲ見ル時ハ自分ニ伝染

スルトノ俗説アリ。マタ海・川ノホトリニテ起ル

トモイフ

くつろぎ 「寛」余裕

○くつろぎ 主ニ金錢ニユトリノ出来ルニ云フ。例「娘

ノ賃錢テ少シくつろぎガ出タ」

くつきヤウ 「究竟」 都合良キコト

○くつきヨウ 最モ大事ナル機会ノ意ニ用ナル。例「今

ガ一番くつきヨウナ時デアル」

くどき 「口説」 一種ノ小唄

○くどウキ 叙事的ノ謡、沖縄ノ上リ口説ハ琉球ヨリ

薩摩へ渡海ノ道行ヲ叙シタルモノナリ

くなく 「搖」 (一)搖シテ瘦々相觸レシム (二)奸ス房事

○くなく 右ノ意ニ云フモ、ヒロクハ用ナルレズ

川せみ(翡翠)ヲ「たーくなきヤ」トイフ。田ノ

畔ニ栖ミくなくヤウニスルヨリ名付ケタルベシ

くびる 中程ヲシメクハル

○くびる 単ニシメククルコト

くびる 縊死スルコト

○くびりる 右ニ全ジ

くべる 「焼」 モヤス。タク

○うびる 右ニ全ジ

ぐみ 「茱萸」 古名くみ

○ぐーび ぐみニ全ジ

くもつ 「公物」 オオヤゲノモノ

○ぐむち オ上ニ差上グルモノ、主ニ租税ヲ云フ。今

ハ死語ニ属ス、例「ぐむちヲ役所ニヲサメル」

くらがり「暗」 暗キ処

○くらがい 右ニ全ジ。ナホ同ジ意味ノ語ニ「くらす

み」(暗隅)アリ

くらふ 「喰」 (一)食フニ全ジ、飲ムヲモイフ。(二)受ク

被ル

○くろー (一)食フコトノ卑シキ語。例「早くウチくる

テサガレ」「酒くれ者」 (二)例「手ヲくるサレタ」

くら くらべ (競ノ畧)接尾語

○くな 右ニ全ジ。例「奪くな」「取くな」。又「こ

ハ「く」例「奪く」「取く」

くらます 「目をくらます」ハ見紛フ様ニスルナリ瞞着

「後ヲくらます」ハ隠レテ見エヌ様ニスルナリ韜

晦

○まみくらす目見くらすナルベシ。瞞着ノ意。「退

れ」「失せろ」ノ意ニテ「彼方へくらみ」

ト云フハ韜晦ノ意

くり 「渥」 黒キ土ノ水中ニアルモノ、極メテ黒キ色ヲ染ムル料トナル

○くり 「黒キ土」ノ意ハ失ハレタルモ、伐り出シタル木材ニ耐久性ヲ與フルタメ、溜池等ノ泥中ニ沈ムルヲ「くりヲハカス」トイフ。「ハカス」ハ佩カス意ナルベシ

くれ 「樽」 成語くれ木。黒木。丸太

○くり・くりぎ、桶ノ類ヲツクル木片ヲ云フ。鹿児島モ全ジ

くワはう 「果報」 因果ノ応報。多クハ善キニ言フ

○ふー くワヲ畧シテ言ヒタル形ナルベシ

生命アル果報ハ「生命果報」。豊年ノ果報ハ

「世果報」コノ場合ハくワノ姿ヲ存ス。沖縄「か

ふー」鹿児島「ふー」

ぐわん 「願」 神佛に祈り願フコト

○ぐわん。うぐわぬ(御願) 願ヲ立ツルコトハ「ぐわん立てる」願ヲ満ツルコトハ「うぐわぬ満ちる」

ぐわんでふ 「元朝」 元旦

○ぐわんちわー 右ニ全ジ

## 「け」ノ部

け 「故」 「故ノ約カト云フ、故ニ全ジ」

○け 右ニ全ジ 例「才前ガ行ツタけ良カッタ」「雨が降ツタけ芽ヲ出シタ」 源氏「限りナキ願ドモ立テサセ給フけニヤアラム、ヤウヤウ雷鳴リヤミヌ」ノ用例ニ適フ

げ 「氣」 他話ノ下ニ属キテハ風情、気色ヲ云フ、接尾語

げ

○ぎさ ぎハげノ転、さハ助詞、にニ当ル、げに例

「恐ロシサぎさ見エル」「暑サぎさシテ歩ク」

けい 「罨」 けに全ジ

きー 右ニ全ジ

けさ 「今朝」

○ひツさ 先刻ノ意ニ用キル。今朝ハ「今日ノあかつ

き」「今日ノつとめて」

げち 「下知」 指揮、命令

○ぎち 右ニ全ジ、コレヲ形容詞ノ形ニ転用シテ「ぎ

ちさ」トモ云フ。コノ場合ハ厳シイ。干涉ガマシ

イ意トナル

けツこう 「結構」 佳キコト、美シキコト

○きつこー 右ノ意ニテ用キル

ケット 「毛布」

○キット 毛布ノ意ニテヒロク用キラル

けぶし 「烟」 けぶたしニ全ジ

○ひぶさ ケブタキコト。けむりハひぶし、即チけぶ

しノ語ヨリ来レルヲ知ル

けんずい 「間食」 コノ語一日三食トナリシヨリ、転

ジテ小昼飯ノ称トナレリ。オヤツ。間食

○きんじ 間食ノ意ニハ用キズ、小昼飯ハ「ひまじき」

即チ日間食ナリ。きんじハ家普請等ノ際近所或ハ親戚ノ者ナドガ持チ行クオヤツヲ云フ。例「某ノ家ニきんじヲスル」コノ事ト相一致ス。閑田耕筆

「今世造作ヲセル時、諸職人ニ、三時ノ食物ノ外

ニ勞ヲ慰ムルタメニ、酒餅ノ類ヲフルヲけんず

イト言フ云々」

## 「こ」ノ部

こ 「子」 父母ガ男女子ヲ愛シテ呼ビ名付ケシニ起ルナルベシ、後ニハ女子ニノミ名付クルガ多クナレ

り

○くワ 男女子共ニ用キラル。例「太郎ぐワ」「次郎

ぐワ」「米ぐワ」「光ぐワ」

こ 「籠」 竹ニテ編ミ作レル器ノ総称

○く 右ニ全ジ 例「ていぐ」(手籠)「みぐ」(目籠)

ご 「伍」 仲間、全列

○ぐー。ぐ 器物ノ一揃ナルヲ云フ。例「バ碗ノ身ト蓋トハ「ぐー」ナリ。其ノ一方ノ欠ケタルヲ「は

たぐ」(片伍)片々ニナリシヲ「はたぐまじり」(片

伍交)ナリ。

こがす 「焦」 (一)焼キテ黒クス (二)思ヒヲ苦シム

○こーす (一)ノ意ニ用キル。自動詞「こがる」ハ「く

がりる」

こくみ 皮膚ニ突出スル肉

○くちび 右ニ全ジ

こし 「腰」

○ふし 背部ト腰部トヲ総称スル語。背ニ相当スル語

ナシ

こじき 「乞食」

○ふじき 「癩」ヲ云フ。病ノタメニ寄辺ナク門毎ニ

物ヲ貫ヒ歩クヨリ云フナルベシ

「乞食」ニハ「むぬむれ」(物質)ト云フ

こしやう 「後生」

○ぐしよー 右ニ全ジ

こぞ 「去年」

○ふず 右ニ全ジ ヒロク用キラル

こそぐ 「刮」 カキケヅル、殺ギヘヅル

○くさぐ 右ニ全ジ 牛蒡ノ皮ナドヲ去ルニ云フ

こそぐる 「櫟」くすぐる

○がじぐる く、すハガ。じハ同列間ノ転ナルベシ

ごたい 「五体」 総身、全身

○ぐてー 右ト全ジ意、ヒロクハ用キラレズ

こたび 「此度」、コノタビ、今度

○ふたび 右ニ全ジ、次第ニ廢語トナリ、くんどウ(今

度)コレニ代ル

こち 「東風」

○ふち 単ニ東ノ意ニ用キ「ふち・ぬ・はじ」(こち

ノ風)ト云フコトアリ

こじれる こぢるノ口語 ワルクナル 悪シク ユガム

○くぢりる 右ノ意ヲ転用シテ詰マリテ悪クナルコト

ニイフ

例「耳がくぢりる」「鼻がくぢりる」聾ヲ「耳く

ぢら」「みみんと」(耳遠ノ義)

ことひうし 「牡牛」

○ふツてうし 右ニ全ジ 鹿兒島語「こつてうし」

ごと 「如」 如クノ語根

○ぐとウ ごとくノ形ニテハ云ハズ。「ごとし」ハ「ぐ

とウシヤ」

こと 「事」(一)シワザ (二)世ニアラハル、現象、コト

ガラ、事件 (三)常ニ変レル出来事 (四)縁故

○くとウ 右夫々ノ意ニ用キル「ことトモセズ」ノ場

合ニハ「くツどウ」ト促音ニテ云フ。竹取物語「家

ノ人ドモニ、物ヲダニ言ハムトテ、言ヒカクレド

モ、ことモセズ」ノ用例ニヨク適フ。

こと 「異」 常ニ変レルコト

○ふとウ 右ニ全ジ 用法極メテ狭ク女ノ孕メルヲボ

カシテ「ふとウアル」トイフ。事、異ヲ「くとウ」

「ふとウ」ト言ヒ方ヲ別ニス

こなす 「熟」粉熟スノ義ナルベシ (一)さヲ堀り起シ

テ碎キ熟レシム(二)胃ノ内ニテ食物ヲトカス消化

(三)貶ス、ヘナス

○ふなす 右夫々ノ意ニ用キル

こま 「細」 コマカキ サ、ヤカナル

○ぐま 接頭語トシテ多く用キラル。「ぐま砂」「ぐま

物」 形容詞形ハ「ぐまさ」コレヲ「ふまさ」ト

云フトキハ、ツゞマヤカナルコト。転ジテ遠慮深

キ意トナル。例「ふまさスルカラ金子ガタマル」

「ふまさシテ何モ食ベナイ」

こみ 「塵芥」

○ぐみ 塵芥ヲイフニ「ぐみ」「あくた」「ぐむく」ア

リ。「あくた」ハ大キヤカナルヲイヒ「ぐみ」ハ

小ナルヲイフ如シ。「ぐむく」ハ「もく」ノ訛

ナリ

こむら 「木叢」、木ノ枝ノ交ハリ繁リタル所

○ひーぶら 右ニ全ジ

こもる 「籠」 (一)隠ル、忍ブ (二)物ノ内ニフクマレテ

アリ (三)家ニ在リテ出デズ

○ふまる 右夫々ノ意ニ用キル

こらす 「懲」 他ヲ懲ルヤウニス

○くらく 他ヲ打擲スル意ニ転用ス 例「彼カラ頭ヲ

くらかレタ」

こらえる 「怵」 こらふノ口語、堪へ忍ブ、我慢スル

○ふれる 右ノ意ニ全ジ、 例「癩ニ障ラウガふれテ

呉レヨ」